



73
10
295
4

軍防令講義
四



12
295
4



軍防令講義卷之四

令義解第

可三八月の強弱

凡將帥出征兵滿一萬人以上將軍一人副將軍二人
軍監^{グシケン}二人軍曹^{グシソウ}四人録事^{ロクジ}四人

義解^{イゲ}子謂一萬二千人以下何者滿三千人得一
軍號^{グシ}故也といへり下子五千人以上并三千人
以上各為一軍と云を合せ考ふと一軍四千人
三軍一萬二千人中軍一軍五千人三軍一
萬五千人あるひも中軍五千人前軍三千五百

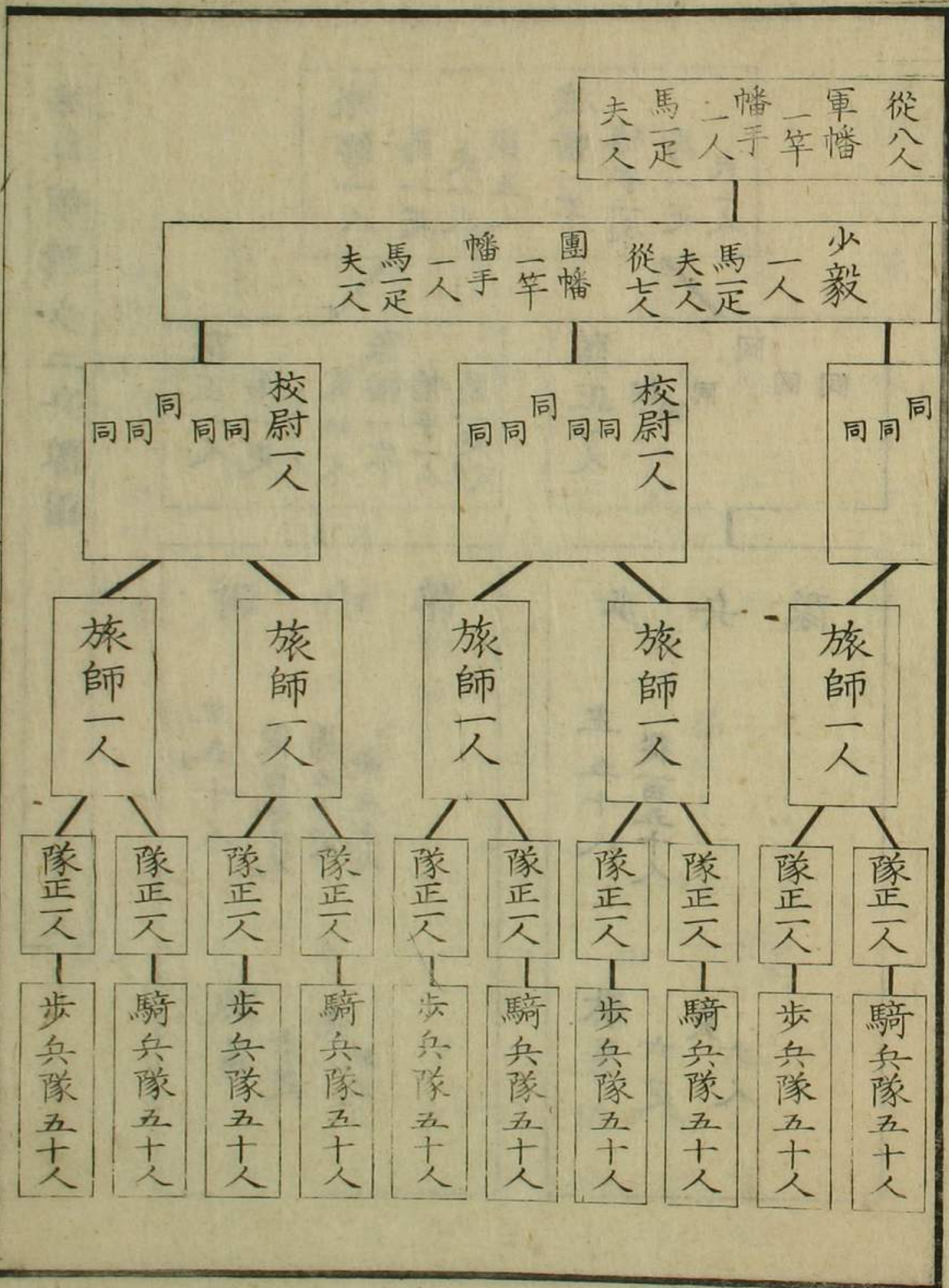
軍防令卷四

人後軍三千五百人合せ一萬二千人の時
 有べ一萬人以上とふれば將軍一人副將軍
 二人三軍を率也ふてとるべ一但將軍ハ長
 官なり副將軍ハ次官あり軍監ハ判官あり軍
 曹ハ大主典録事ハ少主典と義解コトワハ然
 れば録事軍曹ハ軍監以上の處分を受て軍中
 の事實を記録し内外の注進以下の替留失錯
 を記録し就て檢出カシヘイタを以て職とし軍監ハ一
 軍内の作法を糾判し注進狀以下の書狀を審

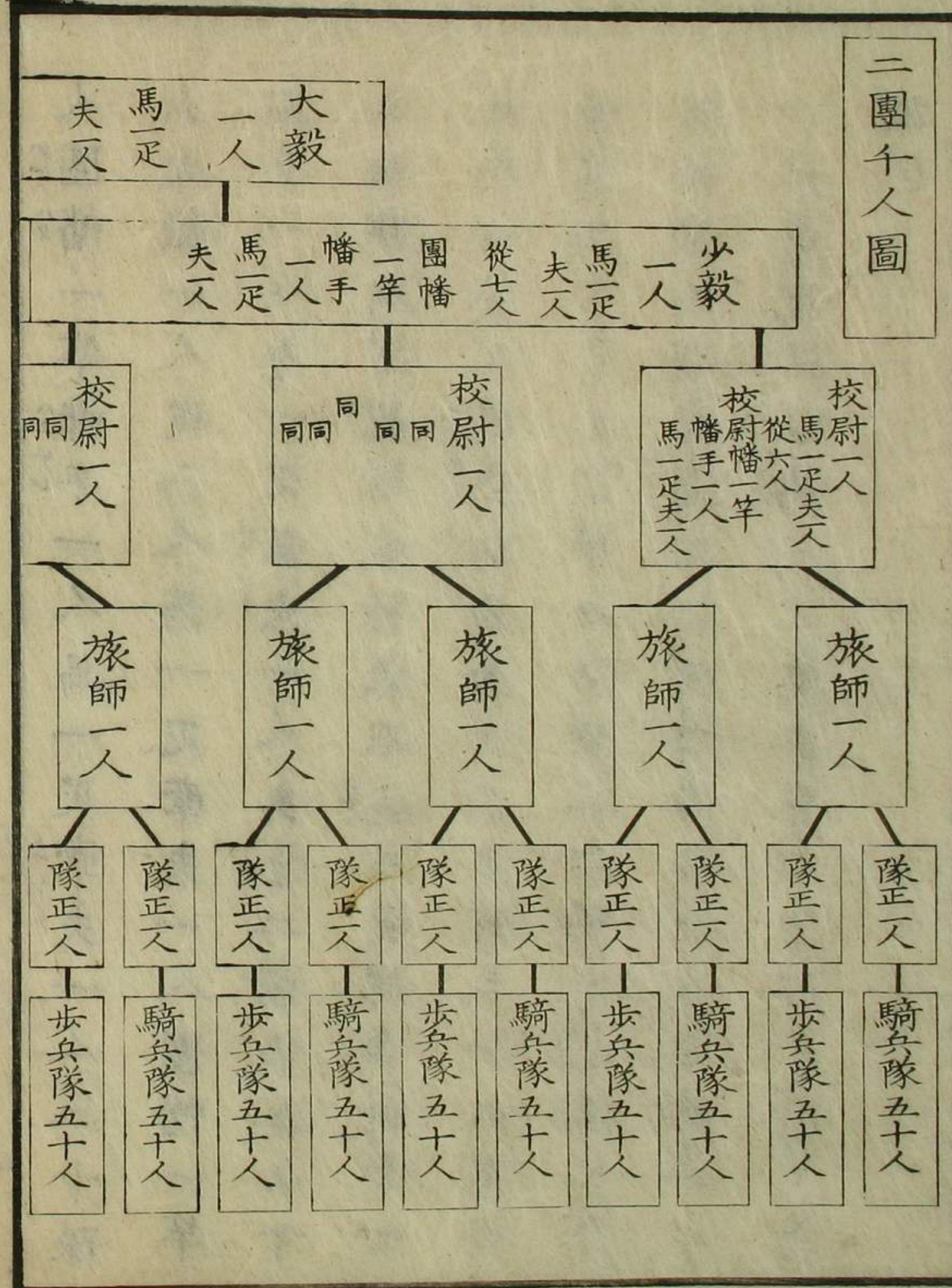
署し偽質を正し万事に替留あふか軍器以闕
 乏失錯あるかと心付一軍内の宿直を奉行を
 る戎職とを因て左右廂と分ち戦場を從て兵
 士を率領せしむとあるへ一然兵士十人を一火
 せし一幕とし五火を一隊とし兵士五十人か
 り馱馬六疋の外騎兵隊からの堪乗五十疋あ
 るべし兵士將從ハ貧富を因といへども三人
 ハ必あるべければ九百五十人より少くも
 有べからば牽夫ハ五十六人一隊の總人數主

五十人從二百六人合せ_く二百五十六人馬五
 十六疋なり歩兵隊ハ主五十人馬六疋牽夫六
 人一隊の總人數二百六人馬六疋か_つ騎兵隊
 歩兵隊二隊子隊正二人從各四人馬二疋牽夫
 二人旅師一人從五人馬一疋牽夫一人隊幡二
 竿幡手二人馬二疋牽夫二人旅幡一竿幡手一
 人馬一疋牽夫一人四隊子校尉一人從六人馬
 一疋牽夫一人校尉幡一竿幡手一人馬一疋牽
 夫一人十隊子少毅一人從七人馬一疋牽夫一

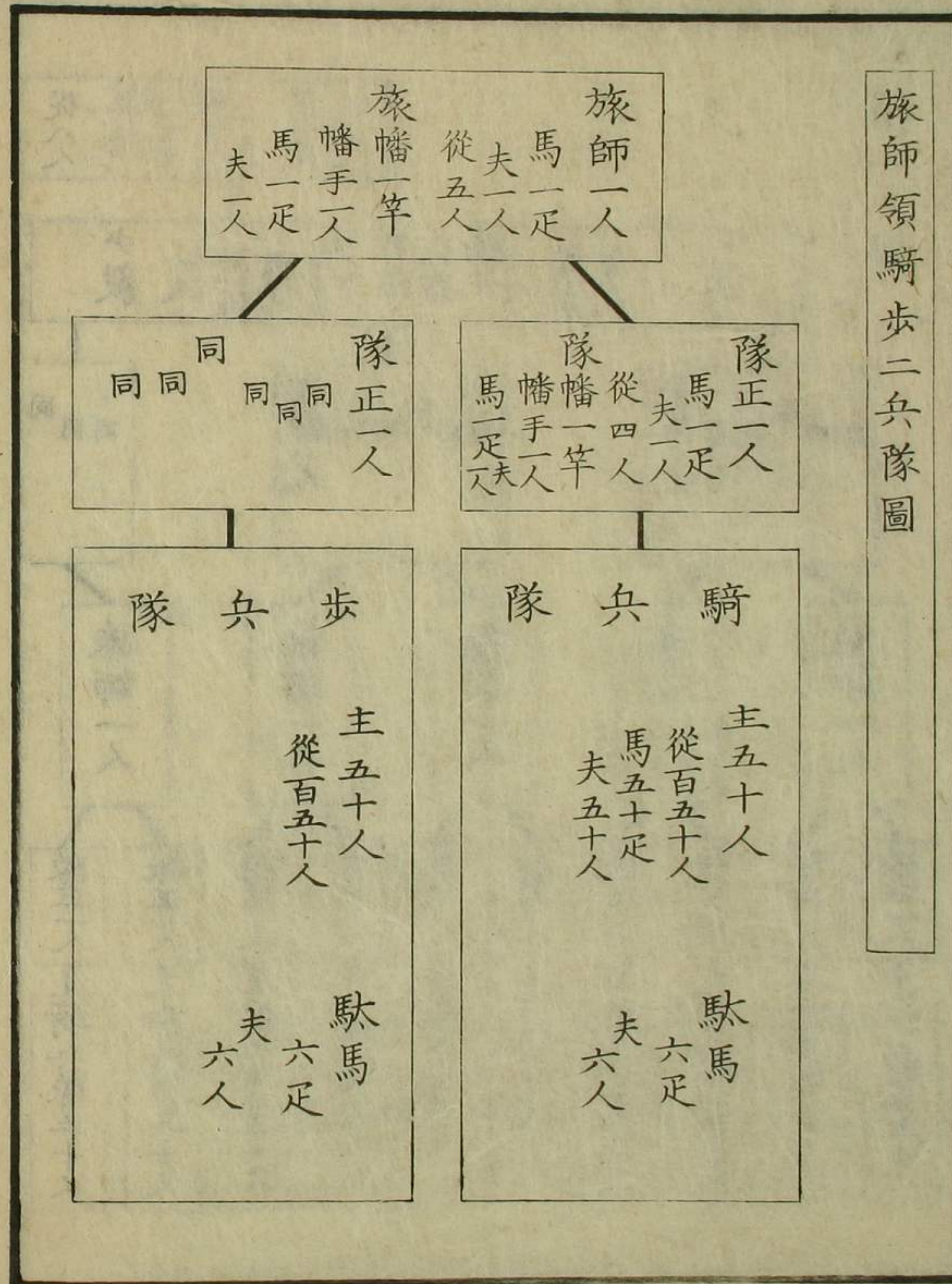
人團幡一竿幡手一人馬一疋牽夫一人二十隊
 小大毅一人從八人馬一疋牽夫一人團幡一竿
 幡手一人馬一疋牽夫一人お_き二團の兵士千
 人大毅以下校尉旅師隊正迨主從總合四千七
 百九十四人堪乘駄馬合せ_く六百九十六疋の
 軍装み_し々々天文中白井淨三の記を_あ處三軍
 方圓圖の_あ載淨三ハ阿波の三好氏子仕ふと
 いふ是說從上傳へ_し處お_きべ_し因_りあ_くみ
 記以



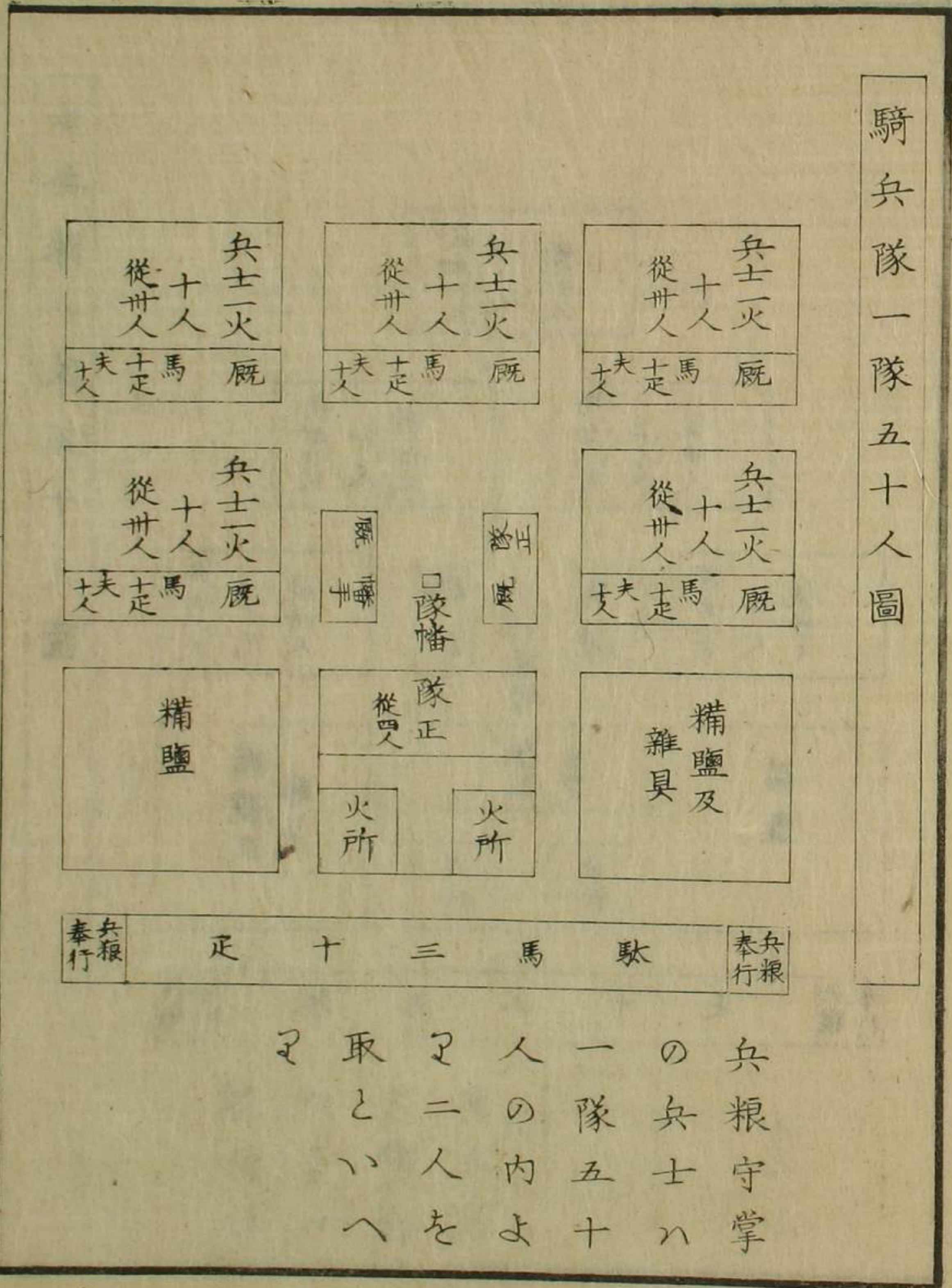
二團千人圖

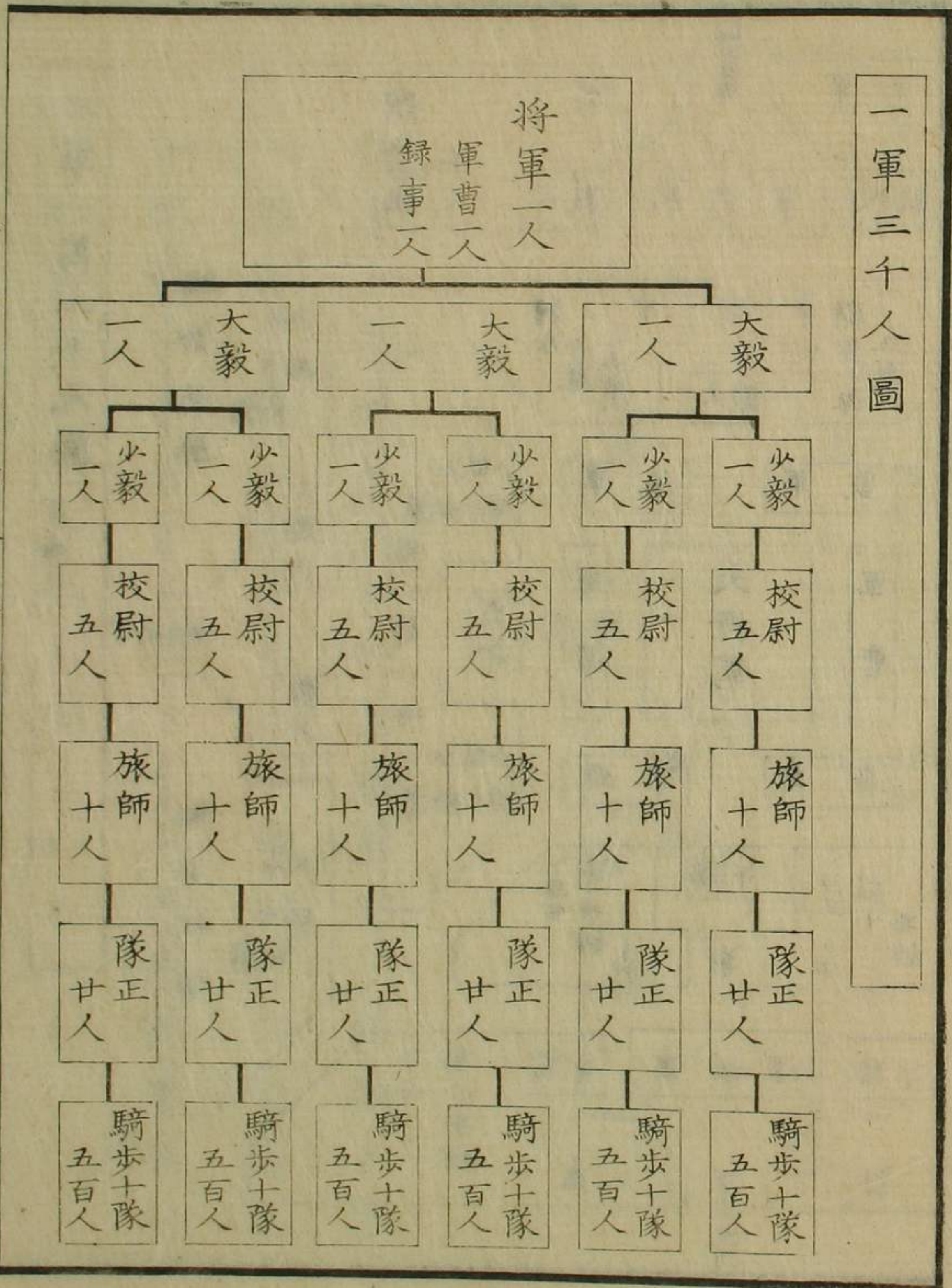


旅師領騎歩二兵隊圖

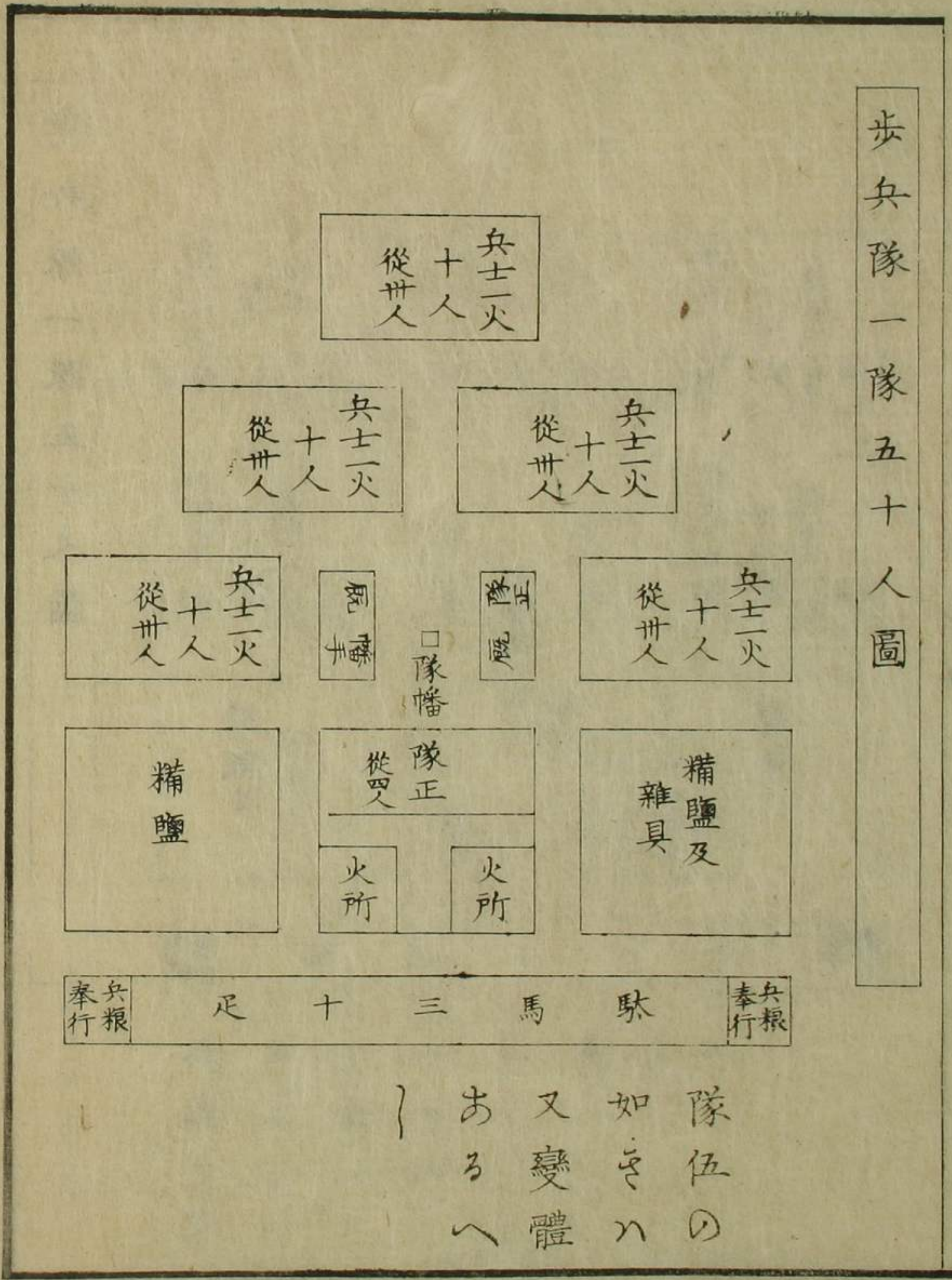


騎兵隊一隊五十人圖

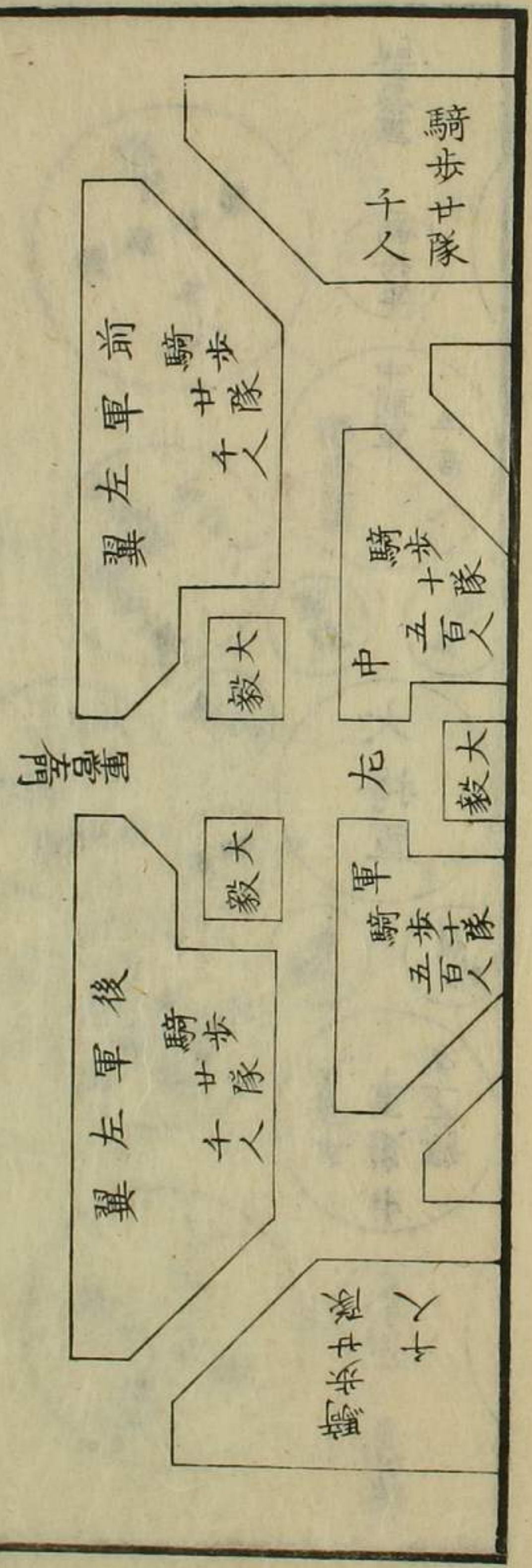
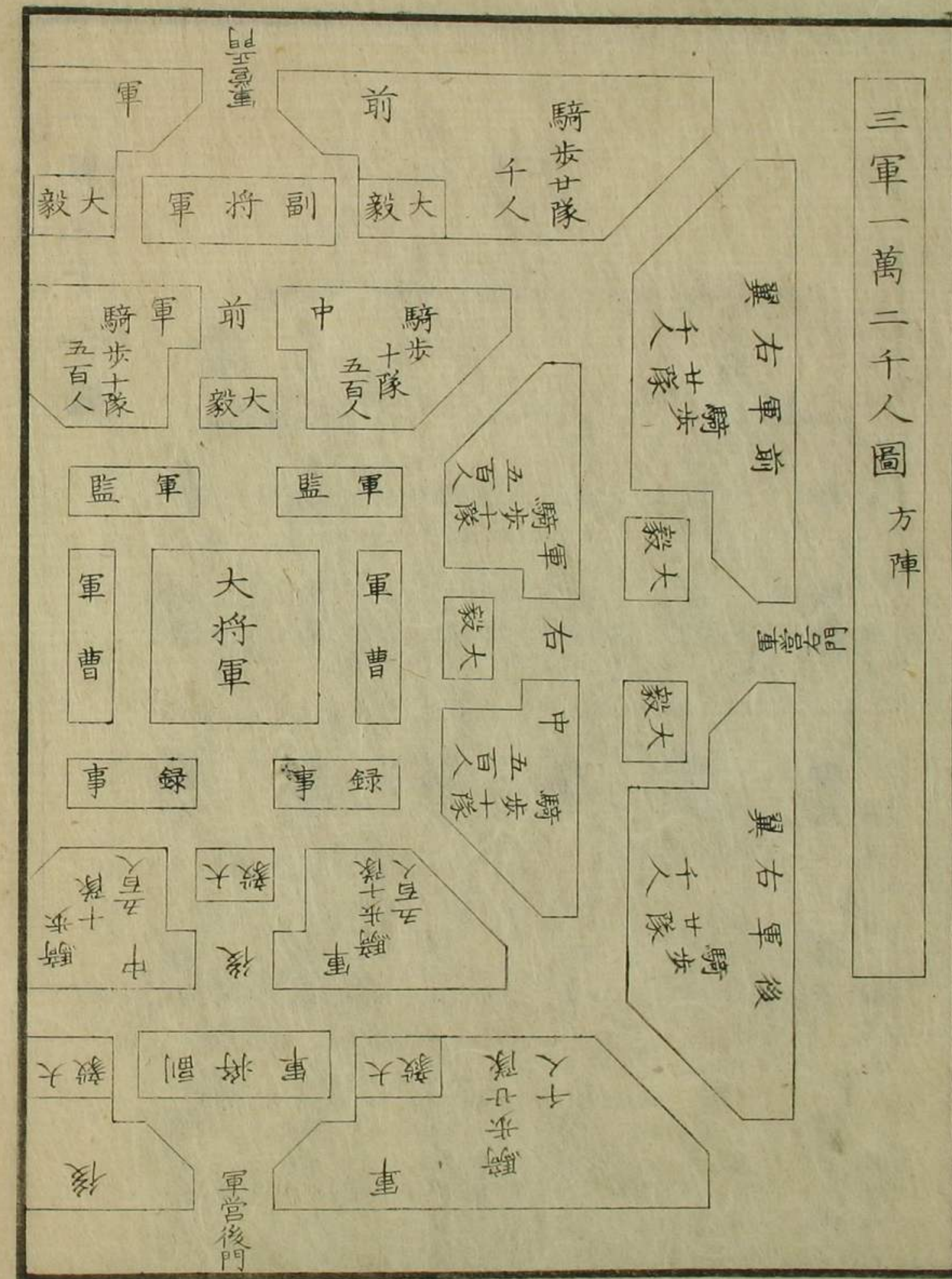




步兵隊一隊五十人圖

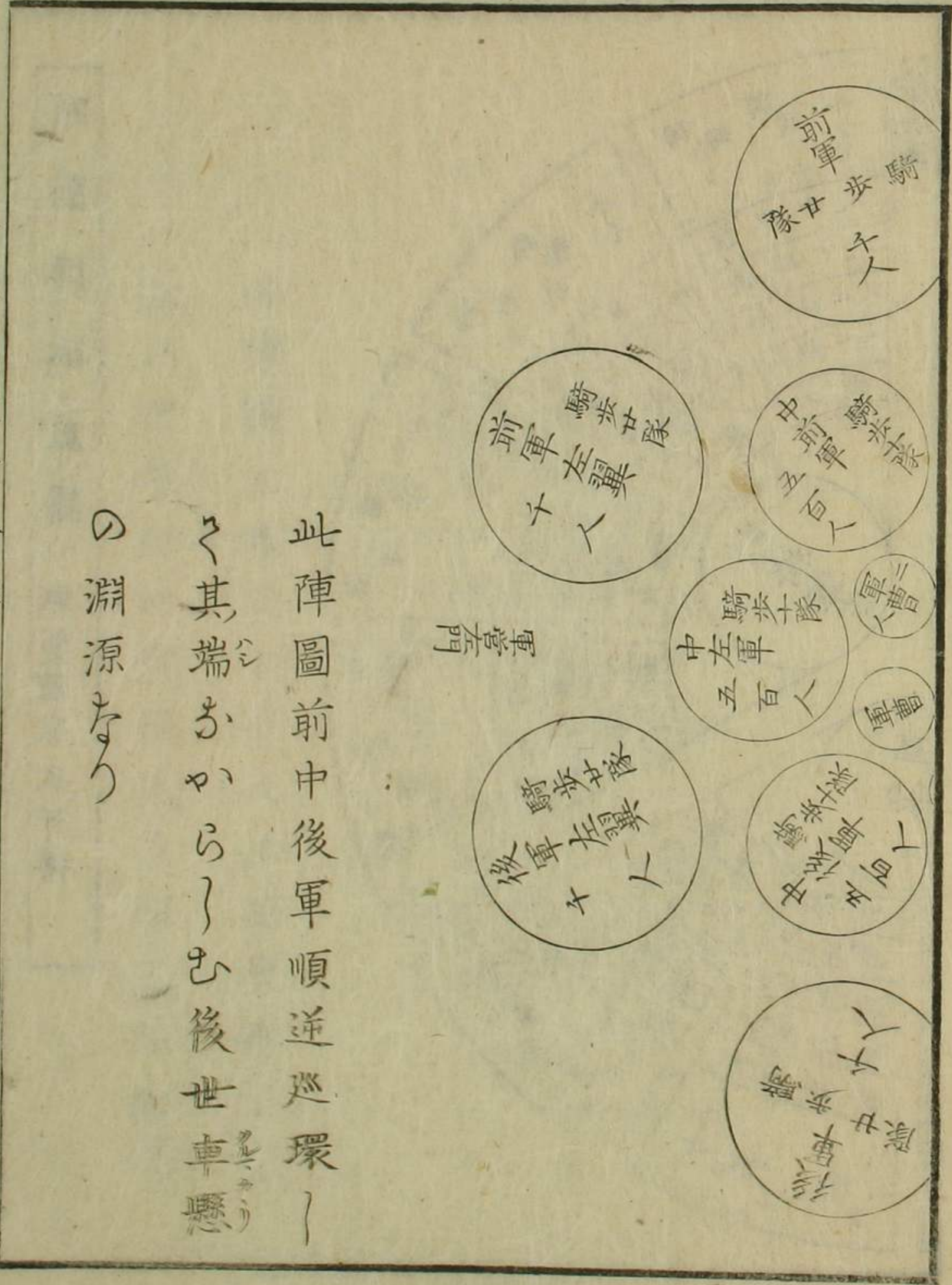
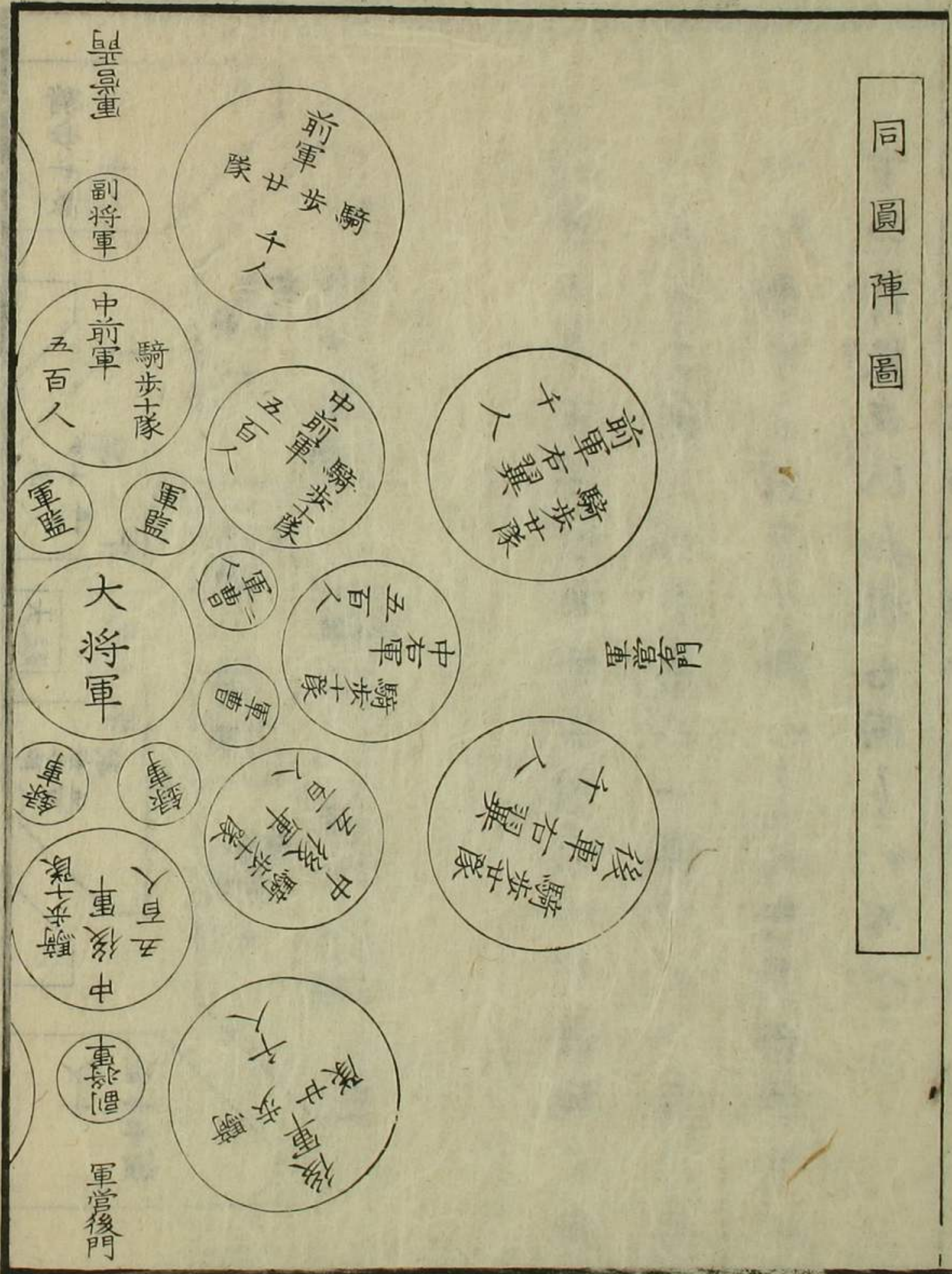


三軍一萬二千人圖 方陣



前軍中軍後軍左右共ニ捕塩以下器械ニカ
 一隊別ニ備入はふとバ一隊六疋の馱馬ハ
 一陣營中子あると知べ一 大將軍副將軍以
 下の將從及ひ兵糧も同トかるべ一

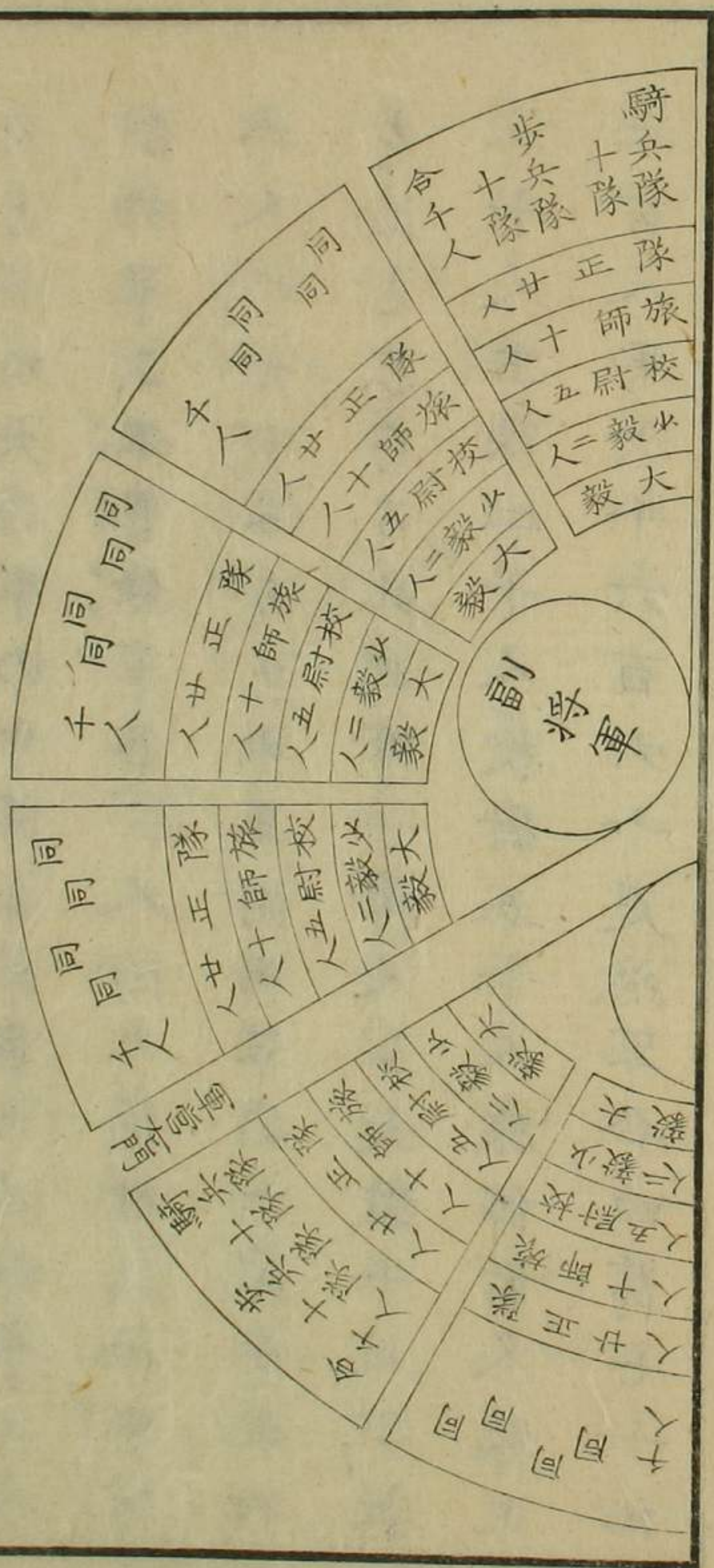
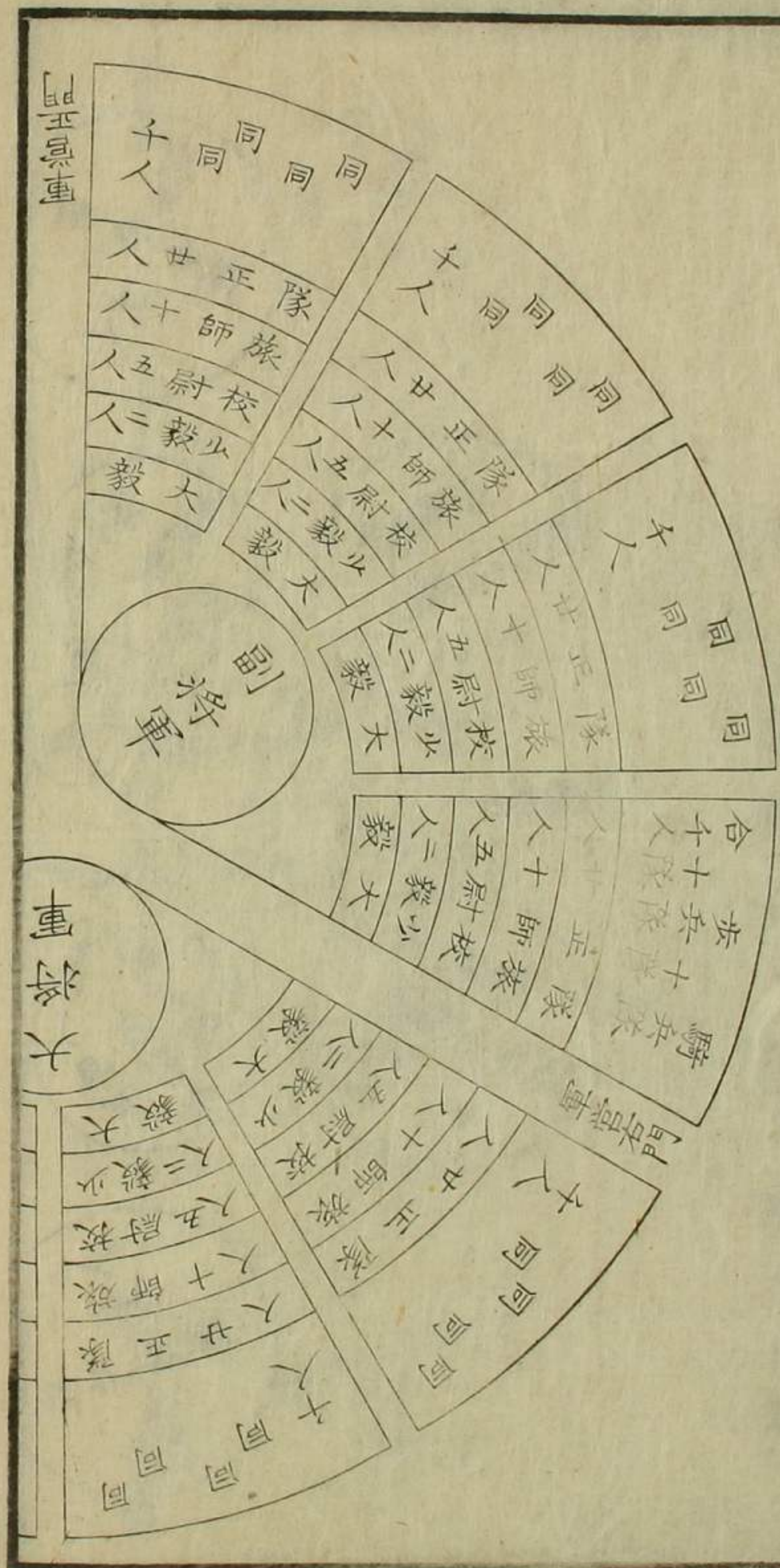
同圓陣圖



此陣圖前中後軍順逆巡環
 其端シかからしむ後世ノ車懸ノ
 の淵源なり

同圓陣孤虛圖

甲斐國源氏河傳



此陣圖三軍各四千人三面旋轉
 互入相援即甲斐源氏子傳入る処乃
 是を此陣の法あり

一萬人ふハ大將軍一人官位子因く資人事力の數同くから以副將軍二人是も官位子因く從者の差あふべし軍監二人軍曹四人録事四人と云ハ大將軍の中軍子軍曹二人録事二人副將軍入軍曹録事各一人びく戎附られ軍監二人ハ左右子分ち中軍副將軍の二陣を糾判を依と志らる此三軍一萬人子大教十人少教二十人主帳二十人校尉五十人旅師百人隊正二百人馬六千六百六十足總軍合四萬七千九

百四十人の外將軍三人軍監二人軍曹四人録事四人合十三人の從者と乘馬燾幡幡手あるべし姑一萬人の糶六千石今の五千七百六十石四百斗入一萬四千あり此外子大少教校尉以下隊正以上四百人の糶二百四十石今の二百三十石零四斗四百斗入五百七十六俵從者牽夫總合三萬七千五百四十人の糶二萬二千五百二十四石今の二萬千六百二十三石零四斗四百斗入五萬七俵二斗糶總合今斗入六萬九千零三十四斗四百斗入五萬七千零三十四

三俵二斗四升塩九百五十八石八斗その餘六
 千九百六十足の^一秣以下^{カヒク}飼具あるべし此軍行
 歩兵一隊五十人^{十人}一列相距五歩としく二十五
 歩子兵士を^歩歩せ從者百五十人の主子^{ソク}添く^{アヒ}歩
 せ駄馬六疋三十歩子牽^{ヒカ}せ凡五十五歩一隊
 なり騎兵一隊五十人^{二騎}一列百二十五歩從者百
 五十人の馬子^{ソク}添べし駄馬六疋三十歩子牽^{ヒカ}せ
 二百十歩子騎歩二隊列成かし隊正二人旅師
 一人の分三十歩とさだめ都合二百四十歩か

又^今の^四町なり二十隊千人ハ二千四百歩^今の^四十
 二百隊一萬人ハ二萬四千歩^今の^四百^町なり^今の^四百^町
 ハ今の十一里四町なり一萬の軍兵ハをべし
 四萬七千九百四十人子及ぶ四萬七千餘人を
 列立をふだし十一里四町子^{ワタ}涉れ又道子平垣
 の処と峻峻の地とかち^{ワタ}り又川舩^{ワタ}りし等
 乃別あり軍士子兵糧間^{クシ}食草鞋^{イワラ}の暇^{ヒマ}あり馬子
 水草の^{イサ}節^ノ阿^ハ又公式令子歩ハ五十里と云五十
 里ハ令乃一萬五千歩^ハ今^ノの五里二十八町

二十間なり曉夕初刻より暮酉初刻まで六時
入歸ルバ一時子二千五百歩と志らふ令の二十
五百歩ハ一萬二千五百尺なり六尺一步入
除ハ二千八十三歩二尺あり六十間一町の法
入る三十四町四十三間二尺子准以兵一萬八
千七百五十人許を渡とべけとち一萬八千
七百五十の人を宿を一家百人と定め九百
八十八家及ぶべし是行軍第一の機會と知
べし日本紀云神倭磐余彦火々出見天皇甲寅

年十月辛酉帥舟師至速吸之門云々行至菟狹
云々十一月甲午至筑紫崗水門十二月壬午至
安藝國とあり謹く皇師の海路を考へ奉るふ
速吸之門ハ今豊後國佐賀關あり佐賀關ハ速
立せぬ是皇師の海導者子仕ふまのり珍
度の妻といへ又出の佐賀關子日向泊と云
かあす天皇の御船を高千穂宮より發途玉ひ
かけらるゝと云又高千穂宮より發途玉ひ
今日向洋四十五里を漕らせられしと伺ふ
速吸之門より菟狹より祝洋周防洋を漕らせ
られ菟狹より筑紫崗水門入着せらるゝと云

三十四日戎經ヘさせられ崗水門ヲカノミナトより又周防洋
 を安藝國埃宮チノミヤに至らせられはく凡今海路三十
 七八里ミをミぎざミ安藝國埃宮チノミヤに著せられてよ
 り九十八日明年三月六日己未ミに至り吉備キビの
 高島タカシマに徙らシ給ふとあれば此御時の軍行也
 緩ユレらカかマりシと伺ひ奉る戊午年二月丁未チノミ
 吉備高島より皇師ミイノミの舳ヘ艦トモを發タ難波ナニハの碇サキよ
 り三月丙子チノヒ河内カハチ草香クサカ白肩シラカタの津ツに著せらる
 海江の路凡ミ五十四里を三十日サカに遡サカらせら

る是も亦軍行と云を以レ如是緩ユレらと上ホらせ
 給ふときこの是時ヒノオミ日臣命ヒノキミの帥オホ大來目オホツメの督イノチ
 将元戎キミオホツハモリと云を熟考イフをレ日臣命ヒノキミの大將軍オホツメに
 て大來目督將オホツメノハ將軍元戎オホツハモリハ大毅少毅オホツメノに比ヒ
 べシ然サテハ今乃兵制サテ全く近江の朝廷乃新制サテに
 非イるミとも彌明イモリらカ子遠祖の正典列代の皇綱
 と稱せられシ詔ミコトノリの浮華ウキハル出デとカらぬを中心ナカに
 會得キをベ續日本紀和銅二年三月壬戌の条
 入陸奥越後二國蝦夷野心難馴レ屢害良民レ於是

遣使徵發遠江駿河甲斐信濃上野越前越中等國以左大辨正四位下巨勢朝臣麻呂為陸奥鎮東將軍民部大輔正五位下佐泊宿禰石湯為征越後蝦夷將軍內藏頭從五位下紀朝臣諸人為副將軍出自兩道征伐因授節刀并軍令とあるハ頒令の後初てあり

五十人以上減副將軍軍監各一人録事二人

義解子謂九千人以下也と云たとへバ兵士九千人ハ大將軍副將軍軍監各一人録事二人と

あれバ軍曹ハ四人と聞ゆ九千人を前四千人として副將軍おとを帥キヒ軍曹二人録事一人是子從ヒ後五千人大將軍あれを帥キヒ軍曹二人録事一人是子從ヒ軍監一人前後二軍を糾判をヒと聞ゆ又八千人ハ前三千人後五千人六千人ハ前三千人後三千人五千人ハ前二千人後三千人と分ヒ時もあるべし或ハ前五千人として將軍これを帥キヒ後四千人副將軍是を帥キふるとも有べし地の形勢子よキと分

割をへけよバ必しも前後二軍子かざはよむ
 有べからば九千人ふハ大毅九人少毅十八人
 校尉四十五人旅師九十人隊正百八十人主帳
 十八人馬九千二百六十四疋總合四萬三千
 百四十六人八千人ふハ大毅八人少毅十六人
 校尉四十人旅師八十人隊正百六十人主帳十
 六人馬九千五百六十八疋總合三萬八千三
 百五十二人七千人ふハ大毅七人少毅十四人
 校尉三十五人旅師七十人隊正百四十人主帳

十四人九馬四千八百七十二疋總合三萬三千
 五百五十八人六千人ふハ大毅六人少毅十二
 人校尉三十人旅師六十人隊正百二十人主帳
 十二人九馬四千七百七十六疋總合二萬八千七
 百六十四人五千人ふハ大毅五人少毅十人校
 尉二十人旅師四十人隊正百人主帳十人九馬
 三千四百八十疋總合二萬三千九百七十人と
 去るへし
 三千人以上減軍曹二人各為一軍

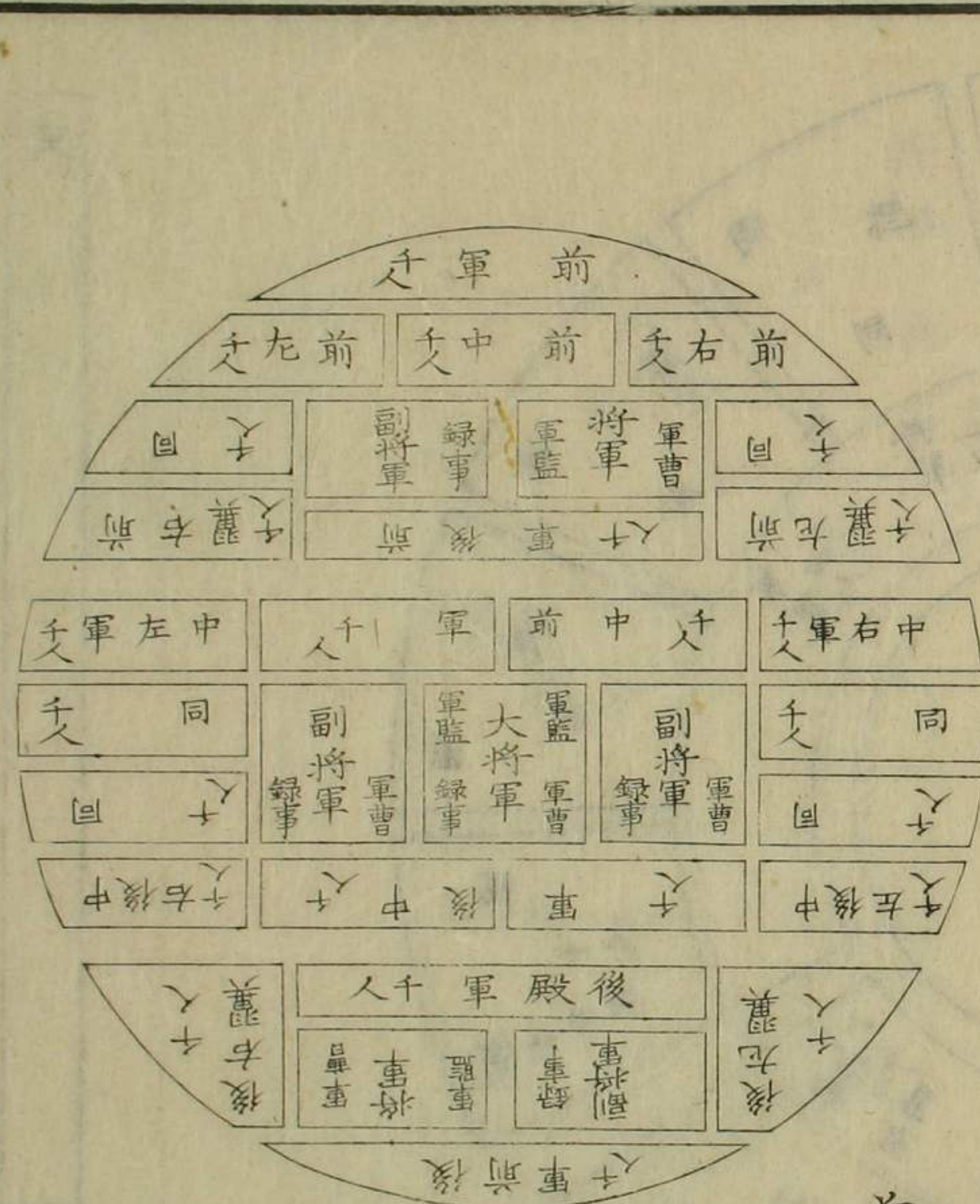
義解子謂四千人以下也と云ハ四千人以下も
 三千人以下も將軍一人副將軍一人を二軍子
 分ち軍曹二人録事二人軍監一人と志らふ各
 の字ハ將軍副將軍軍曹子かけて讀へけれハ
 將軍一軍副將軍一軍と聞ゆ爰又一軍と云ハ
 後子一手といふと同しけ之ハ即上古子戸畔
 と云しと同しきなり四千人を二千人法く前
 後分ち又ハ前千人後三千人或ハ前三千人
 後千人と分ゆとも有へしまゝ三千人も同し

是男軍女軍ヲイクサの法と聞ゆ之ハ即神倭磐余彦火
 出見ホデ天皇の軍制イクサノセと知へきなり
 每總三軍大將軍一人

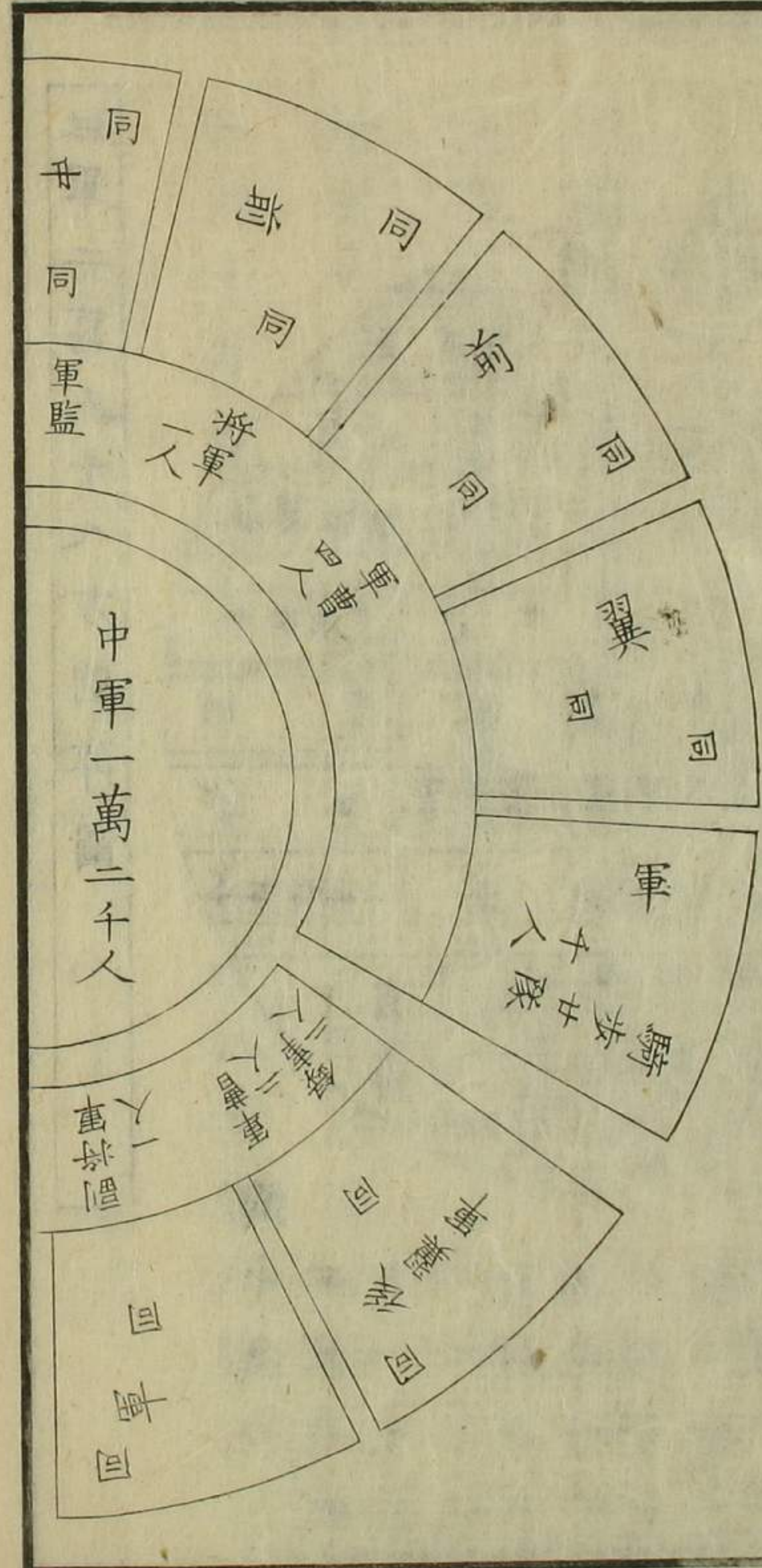
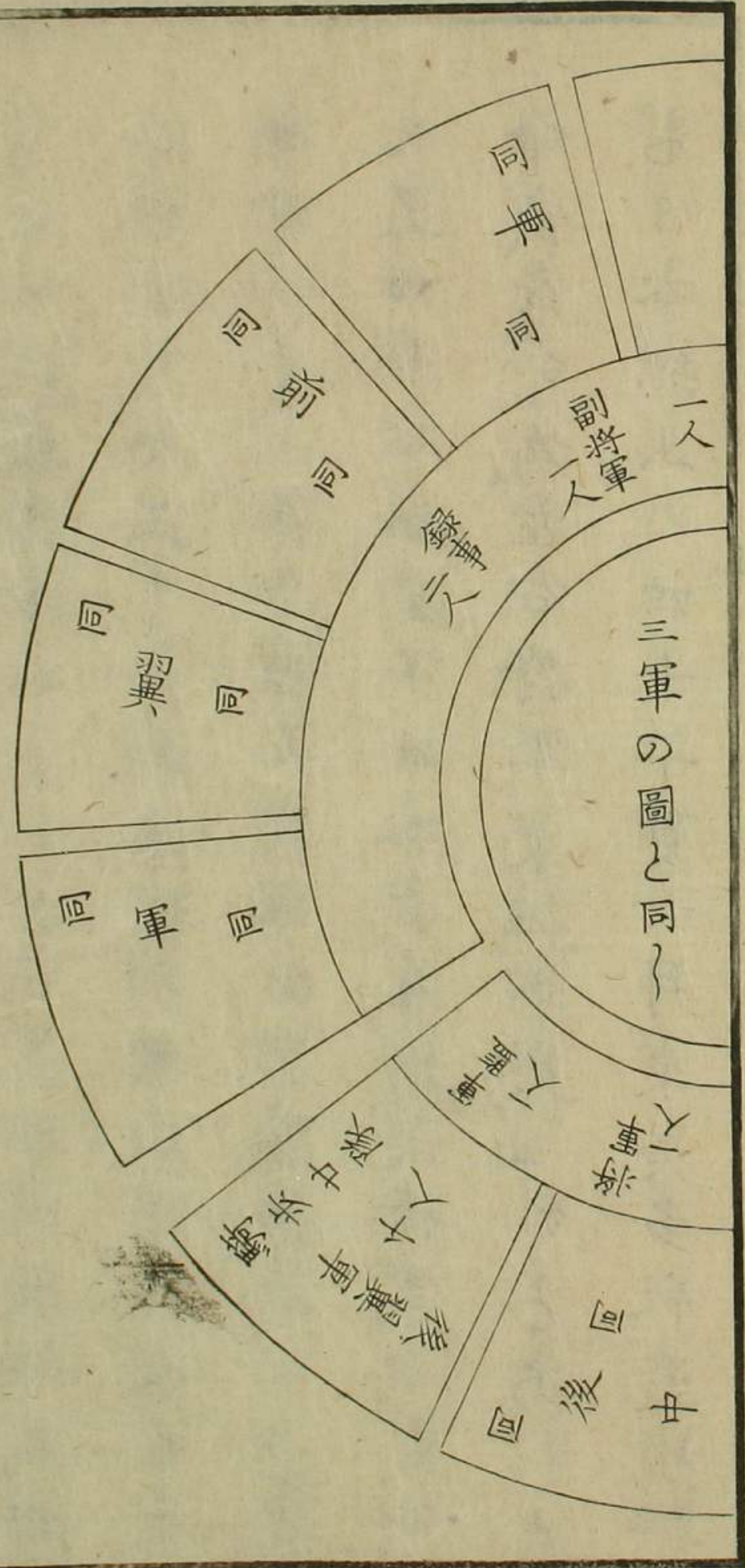
義解子謂一萬人以上及五千人以上并三千人
 以上各為一軍故云三軍ハ一軍為一萬人以上
 一萬二千人及一軍ハ五千人以上九千人
 以下子一軍ハ四千人以下三千人以上合せ
 一萬八千人又ハ二萬五千人を三軍と志し
 時ハと云なり其三軍官者大將軍一人將軍二

人副將軍四人軍監四人軍曹十人録事八人と
 いふハ一萬人以上一軍ハ大將軍一人將軍一
 人軍監二人軍曹二人録事二人ハ中軍子あり
 〴〵總督とあつ副將軍二人軍曹二人録事二人
 ハ前後子軍イセタテハるこ前の圖ニルハる知ハ一ニル次子五
 千人一軍子將軍副將軍軍監各一人軍曹四人
 録事二人前後二軍子分ハるも前子云如一三
 千人一軍ハ前子ハハる息長足姫尊オキナカタラシメの紀子三
 軍の名ハあれとも其制ハハるハ聞ハ

三軍二萬五千人方圓陣圖



前中後の三軍旋轉
 一一定を
 べから以
 自然その
 順逆奇正
 の機發子
 應ハ變化
 又窮ア有
 べから以



又

凡大將軍出征臨軍對寇大毅以下不從軍令
 義解子謂凡闖外之事將軍制之欲有所指麾乃
 立其教令是為軍令其自非大將軍而諸將軍以
 下者不得復出令也といふハ三軍の教令大將
 軍の出を処ふ〜將軍副將軍以下此教令を
 奉どべ〜となり但大將軍の官職原鈔子景行
 天皇四十年以皇子日本武尊為大將軍以武日
 命武彦命為左右將軍東征蝦夷云々とあれど
 日本紀ハ四十年夏六月東夷多叛邊境騷

動秋七月戊戌六日天皇詔群卿曰今東國不安暴神
 多起云々天皇持斧鉞以授日本武尊曰朕聞其
 東夷也識性暴強云々是天下則汝天下也云々
 示之以威懷之以德不煩兵甲自令臣順云々命
 吉備武彦與大伴武日連令從日本武尊と書さ
 れ〜大將軍といふ〜左右將軍の名ハ勿論か
 り北畠准后暗記の誤なるへ〜是よる二百九
 十六年大泊瀨オホハツセ幼武ワカダケ天皇九年三月の紀子紀小
 弓宿称ユミン蘇我韓子宿称オホトモノ大伴談連カハラヒ小麿火宿称カレヒを

為大將とありて後入の大將軍紀小弓宿称と
 もく自然らへ此四人を大將軍と云官の始と
 云へく夫より六十二年男大迹天皇二十一年
 八月筑紫の磐井イハキヲ叛ムき一時物部麤鹿火大連
 大將ハ民之司命社稷存亡於是乎在アリツトクヤ最哉恭
 行天罰長門ナガノ以東朕制之筑紫以西汝制之專行
 賞罰勿煩ミコト煩奏と詔らるる筑紫を征せしめ給
 ん二十二年の条より大將軍物部大連麤鹿火
 と書さへはるる前より大將とありて略けるより

實ハ大將軍ハ民の司命とありてあるべし
 くく九年を經る麤鹿火大連武小廣國押盾天
 皇元年七月入薨を越の後二十六年天國排開
 廣庭天皇二十三年七月遣大將軍紀男磨宿称
 將兵出哆唎副將河邊臣瓊岳出居曾山而欲問
 新羅攻任那之状とありて大將軍副將軍とも
 令前より置れしと明らかかり近江令の新
 政といふハ更ニ日本紀を讀ぬ人といふへ
 越の八月の條より大將軍大伴連狹手彦兵數萬

を領^{ビキヒ}く高麗伐伐とあまハ同時子大將軍二人
 置れ^{ハッセ}泊瀬部^ベ天皇四年十二月壬午^{四日}の紀
 不紀男^{フヘロ}奢宿祢^{コセノオミ}巨勢臣^{ヒラフ}比良夫^{カシテノオミ}膳臣^{カシテノオミ}大伴^{オミ}嚙連^{ムラシ}葛^{ムラシ}
 城^ヲ烏奈良^{ナラノオミ}臣^{オミ}を大將軍と^シ氏々^{オミ}臣連^{ムラシ}をひきひ
 裨將^ヒ部隊^テ領^シ二萬餘軍^{ニマンニヤク}出^テ居^リ筑紫^{ツクシ}云々^{云々}問^フ任那^{ニナ}事^ヲ
 とあふハ大將軍五人と志らる^{トヨミ}豊御食炊屋^{トヨミケカシヤ}姫^{ヒメ}
 天皇八年の紀子境部^{イタ}臣^ミを大將軍と^シ穗積^{ホヅメ}臣^ミ
 を副將軍と^シて萬餘衆^{マンニヤク}を率^テ新羅^{シンラ}を伐^セせら
 る^ト云^ヒ十年の紀子擊新羅大將軍來目皇子^{イヒ}あ

又三十年の紀子大德境部^{オホトクサヘ}臣^ミ雄摩^{ユマ}侶^リ小德^{コトク}中^{ナカ}臣^ミ
 連國^{レンクニ}を大將軍と^シ小德^{コトク}河邊^{カヘノヘ}臣^ミ祢受^{ネズ}小德^{コトク}物部^{モノベ}
 依網^{ヨサミ}連^{レン}乙等^{ヲト}小德^{コトク}波多^{ハタ}臣^ミ廣庭^{ヒロニハ}小德^{コトク}近江^{チカホ}脚身^{アソミ}臣^ミ
 飯蓋^{イヒ}小德^{コトク}平群^{ヘツリノオミ}臣^ミ宇志^{ウジ}小德^{コトク}大伴^{オホトモ}連^{レン}
 臣^ミ軍^ミを副將軍と^シて數萬衆^{イクサ}を率^テ新羅^{シンラ}を征伐
 と^モこの大德^{オホトク}ハ此時第一^{イッダイ}小德^{コトク}ハ第二^ニなり大
 將軍副將軍冠位の貴きとやくの如^{オキナガタラシ}く息長^{イヒナガ}足^{タラシ}
 日廣^{ヒロノカ}額^{ヌカ}天皇九年乃紀子大仁^{オホニ}上毛^{ウモ}野君^{ノキミ}形名^{カタナ}を
 將軍と^シて蝦夷^{エミ}を討^ツむといへば將軍の冠

位ハ第三ニシテ小徳ヨリ又一等卑シ天命開
 別天皇ノ紀ニ前將軍大華下阿曇比羅夫連小
 華下河邊百枝臣後將軍大華下阿部引田比羅
 夫臣大山上物部連熊大山上守君大石あり大
 華下ハ十九階ノ八階小華下ハ十階大山上ハ
 十一階なり前將軍後將軍ハ前子云ハとク
 一軍を前後と分ハつ又元年五月ノ紀ニハ
 大將軍大錦中阿曇比羅夫連ともハ但大錦
 中ハ天命開別天皇三年ニ増換あり二十六

階ノ七階カシバ元年ニ有リ冠位カレ
 バ元乃大華下といふベキニ二年三月ノ紀ニ
 前將軍二人中將軍二人後將軍二人二萬七千
 人を率ヒテ新羅を打といふ二萬七千人ハ五
 百四十隊ナリ五百四十隊を前中後ノ三軍ニ
 分ケバ百八十隊ハ前中後ノ三軍ニ
 除バ九十隊ハ兵士四千五百人ナリ是九千
 人を一軍トシテ四千五百人ハ二將軍ヲ領
 せしめテ全ク此令ト同シ

及有_下誓違_中闕_上之軍事_下死罪以下並聽大將斟酌專決_ス
 義解_子謂依律征人誓留_及之軍器_等是也_{と云}
 又誓違ハ誓留違失なり約束の期日刻限_子後
 へくも先_{サキ}だつも弓箭刀矛以下隨身の戎具闕
 乏せし時ハ此四字を科_し大將の意を以_て輕
 重を斟酌_して專_に決せ_しむるとなり是す
 令の新制_よあらば御間城_{キイリビコ}入彦五十瓊殖_ニ天皇
 の十年の紀_よ大彦命_{タケノミコ}武渟川_{カハケ}別吉_{キビ}備津彦_{ツツヒコ}丹波
 道主命_{ミチヌシノミコ}を將軍_とおさ_せと不受_レ教者_{あら}ば舉_レ兵

伐_レ之_と詔_らし_し伐始_とし_し男大迹_{ヲオト}天皇の專行
 賞罰勿_レ煩_ス頻_ニ奏_ラとの詔を奉_して令前列代の皇
 綱たることを伺ひ知_へ
 還_レ日具_レ状_ヲ申_セ大政官_ニ若未_キ臨_ミ寇賊_ヲ不用_レ此_レ令_ヲ
 凱陣の日_よ至_リ其誓留違失_ノ状_ヲを具_し注_し
 て決罰の由を大政官_子申せよとな_り但寇賊
 入臨_まさ_し時ハ死罪以下專決を得_以と云_ハ
 た_とへハ節刀を授_けて發途_せし_よ後ハ出
 征_さり臨軍對寇_ハ戰場_{あり}二事_子涉_る如_く

聞人^ハ也^{トモ}出征^ハ臨軍^對寇^ノ始^ス一^ク發途
 の後^ハ都^テ臨軍^對寇^ト云^ベ一^ク日本紀^ニ大泊^キ
 瀬^セ幼武^{ワカダケ}天皇^ニ二十三年^征新羅^將軍^吉備^臣尾代^ヲ
 行^テ至^リ吉備國^過家^後所^率五百^蝦夷^等聞^キ天皇崩^不
 乃^相謂^之曰^領制^吾國^ヲ天皇^既崩^時不可^失也^乃
 相^聚結^侵寇^傍郡^於是^尾代^從家^來會^蝦夷^於婆^娑
 婆^水門^合戰^而射^蝦夷^等或^踊或^伏能^避
 脫^箭終^不可^射是以^尾代^空彈^弓弦^於海^濱上^射
 死^踊伏^者二^隊二^囊之^箭既^盡即^喚船^人索^箭船^ヲ

人^恐而^自退^尾代^乃立^弓執^末而^歌云^々唱^訖自
 斬^數人^更追^至丹波國^浦掛^水門^盡逼^殺之^と云
 又^征新羅^將軍^京を^發一^吉備國^子至^リ時^ノ
 事^トを^推ハ^出征^ス一^て臨軍^對寇^ノ始^トい^ハ
 べ^一新羅^よ又^凱陣^ノ時^トい^ハ臨^寇賊^ノ時^ト
 云^ハけ^トも^如是^時子^當リ^止
 べ^キ理^カ一^然ら^ハ未^臨寇^賊と^云ハ^出征^發途
 及^ヒ凱陣^ノ路^次子^有一^ハ自^別時^有ル^ヘ
 一^又天命^開別^{天皇}崩^御明年^壬申^ノ五月^近江

の朝廷ミカト入り吉野ヨシノより海ウミ以ヨリ皇太弟ミコタタヒの宮ミヤを謀マカられける時七月辛亥ニ日ヒ瀬田セタの橋ハシを斷タガり待マツまけるミ大分オホイト君キミ稚臣ワカシ刀ヤを抜ヌキ急イサ子コとくクハ近江ミヅノ軍イクサ亂マシれ衆タテマツ敗走マシけり入イリ將軍シマツル智尊チノノ刀ヤを抜ヌキ退ヒく者モノを斬キリかとも止トるとあたとハいへ軍令イクサノツケ茂用シゲヨウひさ依ヨ者モノを將軍シマツルの專殺シメタスをハと令前ツケノミより所見シヨケンあり是亦コトモ令ツケの新政シンセイからぬ由ヨをハ去サるへ

允軍將征討須交代者舊將不得出迎當嚴兵守備

所代者到發詔書勘合符乃以從事

天照大神皇孫スメミマの為タメに葦原中國アシハラノナカクニの邪神アレキカミを撥平ハキムケんとく天穗日命アマホヒノを往ユキしめられし征討ハジメの行ユキかゞ然シカるミ三年ミツネまで報聞カクコト申マツさくはハよシ其ソノ子コ大背飯オホセヒ三熊ミクマ之ノ大人ウシを遣ツカえさシしハ是コトも亦モ報聞カクコト申マツさし依ヨく天稚彦アマワカヒコを下シさハ依ヨ然シるミ天稚彦アマワカヒコも功イサを奏ウラさシび是コトはハ於オく經津主フツヌシ武甕槌タケミカヅチ二神ニカミを下シされしハバ駈除ハキムケ平定ヒラニて皇孫ミコタタヒ天降アメノリよりハけり是征討コトの軍將イクサノシマツルを代給カヘタマふ始ハジまり息長足姫オキナカタシヒメ

尊の攝政六十二年二月葛城襲津彦を遣て
 て新羅を討ぜられし譽田別天皇十六年ま
 ぐ消息あかすに成以て平群木菟宿祢的戸田
 宿祢子精兵を授けて急し新羅を討せしやバ
 新羅王愕て罪子服しけるよ又襲津彦を共
 て還りしと云ハ人皇の御代はありて舊將子
 代りし出との始と云べし抑征討の為子授節
 刀て出陣し屯聚て寇賊と對陣せし処へ交代
 の大將軍至りし時の為子此令を立られしお

るべし三軍の時將軍副將軍の交代もて詔
 書ハ大將軍へ下されおからん然して詔書ハ
 新將軍の帶しきよはふとのハ舊將軍の營中子
 兵備を嚴整しして新將軍を入將來の詔書を
 拜し詔書の旨を奉し大政官の符を勘合し其
 後交代をべしとあす公式令し依て謹考ふる
 ぬ詔書ハ

天皇詔旨云々咸聞將軍交代の工を

年 月 某日 此日を宸翰子遊

右の如く内記乃作はてし伺とる義解子凡
詔書者内記於御所作訖即給中務卿卿受詔書
更宣大輔大輔奉以付少輔令送大政官故曰宣
奉行也と云バなり中務卿詔書を給たり宸翰
みく日を御畫入あり内記の作れる詔書を
バ中務省子留て案とふ別子

天皇詔旨云々咸聞

書ハ年月ハ御畫日

宸翰にて御畫入
有りと云義あり

中務卿位臣姓名交宣

可御畫

中務省よる送り詔書へ奥書して大納言よ
る再ひ奏を依を覆奏といふ御覽ありて可の
字を宸翰ふく遊えさせ大納言へ御下あれハ
宸翰の可の字のある茂大政官子留て案とふ
去別子外記ふ寫させ可の字乃下へ御畫と記
し是へ大政官符を副て今將軍の止住を依國
司へ下さはくたり官符書式ハ公式令ふこえ
きり

太政官符

其國司

其事云々符到奉行

史位姓名

大辨位姓名

年月日

かくの如く差發兵士ハ兵部省の職掌なると
も詔書を兵部省より掌るるに令より見え候

凡征行者皆不得將婦女自隨

皆の字ハ兵士以上大少毅子涉ると知へ義
解ふ謂家女及婢亦不可得從也と云ハ出ハ子

可御書

中務省より送る詔書へ奥書して大納言よ
り再ひ奏を依を覆奏といふ御覽ありて可の
字を宸翰より遊えさせ大納言へ御下あれハ
宸翰の可の字のあるは太政官より留て案と
去別子外記より寫させ可の字乃下へ御書と記
し是へ大政官符を副て今將軍の止住を依國
司へ下させ候たり官符書式ハ公式令より之
をり

太政官符

其國司

其事云々符到奉行

史位姓名

大辨位姓名

年月日

かくの如く差發兵士ハ兵部省の職掌ふと
も詔書を兵部省ふく掌るを令子見え候

凡征行者皆不得將婦女自隨

皆の字ハ兵士以上大少毅子涉ると知へ義
解ふ謂家女及婢亦不可得從也と云ハ出ハ子

所謂婦女ハ家女婢の品と別あるものと聞ゆ

日本紀子御間城入彦五十瓊殖天皇の十年武

埴安彦の謀殺せし時夫ハ山背より妻の吾田

媛ハ大坂より京を襲ひては天皇五十狹芥

彦命をくく吾田媛を撃て殺されしとあはせバ

武埴安彦夫婦もく追手後手子向ひゆるなり

又日本武尊の東征子弟橘媛の從ひ奉りしと

もあつ大鷦鷯天皇五十五年蝦夷の叛をける

時上毛野君祖竹葉瀨の弟田道をくく撃せら

令講義
ル一み田道伊寺水門子戰敗走く死しければ
從者田道の手纏を取る妻と與へるかば妻悲
み堪以手纏みく縊れ死したると云も征行の
妻の從へるなり大泊瀨幼武天皇九年紀小弓
宿祢新羅を征伐し向ふ時吉備上道采女大海
を賜て隨身視養の爲にせよと宣うける
ともあり其外河邊臣瓊岳の妻坂本甘美媛を
伴ふひく任那子戦ひ上毛野君形名の蝦夷を
征せし時其妻及び女人數十人伐隨へしとも

この壬申の亂は高天原廣野姫天皇の乘輿に
從ひ玉ひし先蹤もあまの妻の軍に從ひ行と
を禁められしよの非は奸淫の爲み所由もか
き婦女を將去と伐聽されむと知べし
凡征行大將以下有遭父母喪者皆待征還然後告
發

義解子謂大將以下者戰士以上也といへば大
將軍將軍副將軍軍監軍曹録事大毅少毅主帳
校尉旅師隊正兵士追と知べし征還者諸軍罷

還之時也言大將軍奉還節刀及戰士以上將行
官物返納本司之後然乃告喪故令其發哀其自
餘公使者依假寧令於所聞之處舉哭盡哀也と
云バ征討事終つ大將軍節刀戎返上し戰士乃
將行し鼓鉦弩矛楯具裝大前小前軍幡甲冑等
の官物を其受を官司へ返納の後を征還と
いふ然して後父母死亡の由戎官司へ告をト
めり喪服を着し哭泣の哀を舉むるとなり
上し舉る衛士上番年雖有重服不在下限と云

條と合せ考ふべし自餘の公使といふは征討
の使からず公の為子畿外へ出し時のと形り
假寧令子詳し説バ爰よいと云
凡士卒病患及在陣被傷皆遣醫療軍監以下親自
臨視
士卒子病患あれば醫を以て療治せしめ在陣
被傷との戰場みり手を負しもの戎いふその
時も亦療養せしむべし但醫子打任を教むか
り子あらば軍監以下親自これを臨視せよと

いへば病患被傷の士卒を軍監軍曹・録事・大毅
少毅・主帳・校尉・旅師・隊正・自身も視あひいふべ
しとあり然らば隊正をへ副將軍よ又以下旅
師をへ將軍よ又以下校尉をへ大將軍親視し
よふべしといふなり日本紀壬申の亂の時
六月戊子^{廿八日}天皇往^キ於^{ワサミ}和躰檢校軍事而還^{廿九日}己丑天
皇往^{ワサミ}于^ニ和躰命高市皇子號令軍衆還^ニ于野上而
居^レ之とあり親自臨視^ミの令前よ又起れる證と
云べきなり

皇朝兵家も用ひきくは血止薬もおとぞり
草けいてん草三七草の三種を合せしあま
タイホウリヤウヤクと云傳ふ蓋大寶令薬
といふとふハ非るか又蓮華を蔭^{カゲ}ぶし
く用ふ不法もあり又半夏の粉を飯におし
ませ足の裏をしよハ足疲^{ツカ}し又接骨^{ニハトコ}の木
を霜ふし酸^ス子ひたし置折傷も治くれハ
速し治をこれ等にか上古陣中の薬方ふる
べし

